

在校生のアンケート回答から見る  
沖縄国際大学英米言語文化学科の日本語教育

**Japanese Language Education at Okinawa International University**  
**Judging from Questionnaire Answers of Enrolled Students**

尚 真貴子

**Makiko Sho**



## Abstract

Since the Ministry of Education announced the standard educational contents for training courses for Japanese language teachers in 1985, the number of universities that offer such courses has increased. In 1993, Okinawa International University (OKIU) started a minor in teaching Japanese to speakers of other languages in the Department of Japanese Language and Culture and in the Department of British and American Language and Culture. Since that time, the number of people studying Japanese both inside and outside of Japan has continued increasing. Accordingly, Japanese teaching has become diversified. Under such a situation, the need for improvement was pointed out, and in 2000, a working group of researchers and practitioners released a report, Teacher Training for Japanese Education, in order to improve the quality and teaching methods of Japanese language teachers. Responding to social change and the changing demands on Japanese language education, the contents of the curriculum of this university have been modified to better suit current needs. This paper examines the results of a questionnaire administered to students in the Department of British and American Language and Culture who are taking the Japanese teacher training course in order to determine how well the current curriculum meets their present and future needs.

## はじめに

1985（昭和60）年に文部省から「日本語教員養成のための標準的な教育内容」等が発表されて以来、日本語教員養成課程を設置する大学が増え、1993（平成5）年、沖縄国際大学（以下本学）にも国文学科（現日本文化学科）と英文学科（現英米言語文化学科）に日本語教育副専攻課程が設置された。その後、国内外の日本語学習者は増加し続け、それとともに多様化し始めた。そのような状況の中、改善の必要性が指摘され、2000（平成12）年、日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議で、日本語教員の資質向上、教育内容の意義やあり方等から「日本語教育のための教員養成について」として報告をまとめている。このように、日本語教育を取り巻く社会の変化、ニーズに合わせて、本学のカリキュラムも、それぞれの時代に合った内容に改編されてきている。そこで本稿では、英米言語文化学科の日本語教育副専攻課程の科目を履修している在校生にアンケート調査を実施し、その結果をもとに、現時点のカリキュラム運営における現状把握及び学生の動向について考察していく。

## 1. 日本語教員養成において必要とされる教育内容

2000（平成12）年3月に文化庁から「日本語教育のための教員養成について」新しい教育内容が提示され、その中にコミュニケーションとの関係が以下のように述べられている。

日本語教育とは、広い意味で、コミュニケーションそのものであり、教授者と学習者とが固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際的なコミュニケーション活動と考えられる。また、このような包括的概念としてのコミュニケーションは、今回新たに示す

教育内容のすべてに共通しその根底をなすものであり、教育内容の基本となるものである。

その上でコミュニケーションを核とし、表1にあるように、「社会・文化・地域に関わる領域」、「教育に関わる領域」、「言語に関わる領域」の3つの領域に分けている。

表1. 日本語教員養成において必要とされる教育内容

	領域	区分	
コミュニケーション	社会・文化・地域に関わる領域	社会・文化・領域	世界と日本
			異文化接触
			日本語教育の歴史と現状
		言語と社会	言語と社会の関係
			言語使用と社会
			異文化コミュニケーションと社会
	教育に関わる領域	言語と心理	言語理解の過程
			言語習得・発達
			異文化理解と心理
		言語と教育	言語教育法・実習
			異文化間教育・コミュニケーション教育
			言語教育と情報
	言語に関わる領域	言語	言語の構造一般
日本語の構造			
言語研究			
コミュニケーション能力			

出典：『日本語教育のための教員養成について』（平成12年3月 文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議報告）

表1の教育内容を基に本学でも3領域に分け、日本語教員として基本的に必要とされる教育能力や実践能力を養うための科目を設置してきた。

### 1.1 英米言語文化学科における日本語教育副専攻課程の現状

英文学科・英米言語文化学科においては、様々な国の学習者に対応できる教員の養成を目標としてきた。特に実践的な英語力やその他の外国語を学び、国際感覚を身に付けるという、その専門性から英語圏出身者の日本語学習者にも日本語を教える教員の養成を目指してきた。すなわち、英文学科・英米言語文化学科の4年間で修得した英米文化に関する知識および英語力を駆使して、より効率的な日本語教育を実践出来る教員の養成に主眼を置いてきたということである。

英文学科・英米言語文化学科 特に、2001（平成13）年の英米言語文化学科への名称変更

後では時代の変化を先取りしながら、その時代、時代にあった日本語教育副専攻課程のカリキュラムを改編してきたのである。このこともあって、履修者は年々増え続ける傾向にあり、現在に至るまで順調にきていると思われる。

## 1.2 英米言語文化学科のカリキュラム

1993（平成5）年に、国文学科と英文学科の両学科に日本語教員養成課程（副専攻）が設置された。教育の基盤となるカリキュラムについては文部省が示す、日本語教員養成のための標準カリキュラムを基に、両学科で互いに必要な科目を提供し合うことで編成されている。その後、2016（平成28）年に至るまで、状況に応じ何度か改編され現在では表2に落ちている。英米言語文化学科のカリキュラムは、以下の通りである。

表2. 2016（平成28）年度 英米言語文化学科のカリキュラム

必要な知識・能力	科目名	単位	年次	備考
言語に関わる領域	日本語学入門*	2	1	選択必修10単位
	日本語表現法演習Ⅰ	2	1	
	日本語表現法演習Ⅱ	2	1	
	日本語文法基礎Ⅰ*	2	1	
	日本語文法基礎Ⅱ*	2	1	
	日本語現代文法Ⅰ	2	1	
	日本語現代文法Ⅱ	2	1	
	日本語学概論*	2	2	
	日本語文法論Ⅰ*	2	2	
	日本語文法論Ⅱ*	2	3	
	日本言語史Ⅰ*	2	3	
	日本言語史Ⅱ*	2	3	
	言語学概論Ⅰ	2	2	
言語学概論Ⅱ	2	2		
社会・文化・地域に関わる領域	ジャパノロジーⅠ*	2	2	選択必修4単位
	ジャパノロジーⅡ*	2	2	
	言語文化接触論Ⅰ*	2	3	
	言語文化接触論Ⅱ*	2	3	
	異文化理解Ⅰ	2	3	
	異文化理解Ⅱ	2	3	
教育に関わる領域	日本語教材研究演習	2	2	必修10単位
	日本語教授法演習Ⅰ	2	2	
	日本語教授法演習Ⅱ	2	3	
	日本語教育実習Ⅰ	2	3	
	日本語教育実習Ⅱ	2	4	
				14科目28単位

\*印の科目は日本文化学科の提供科目である。

### 1.3 日本語教員として望まれる資質・能力

日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議（2000）では、「日本語教員に求められる資質・能力」について報告している。その内容を表3のようにまとめた。

表3. 日本語教員に求められる資質・能力

日本語教員としての基本的な資質・能力	日本語を正確に理解し、的確に運用できる能力	<p>(ア)言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。</p> <p>(イ)日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること。</p> <p>(ウ)国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚と人間性を備えていること。</p> <p>(エ)日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有すること。</p>
日本語教員の専門的能力	個々の学習者の学習課程を理解し、学習者に応じた適切な教育内容・方法を判断し、それに対応した効果的な教育を行うための能力	<p>(ア)言語に関する知識・能力 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、そして言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識があり、それらの知識を活用する能力を有すること。</p> <p>(イ)日本語の教授に関する知識・能力 過去の研究成果や経験等を踏まえた上で、教育課程の編成、授業や教材等を分析する能力があり、それらの総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力を有すること。</p> <p>(ウ)その他日本語教育の背景をなす事項についての知識・能力 日本と諸外国の教育制度や歴史・文化事情に関する知識や、学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力を有すること。</p>

表3から日本語教師の資質・能力として、「コミュニケーション能力」、「外国語能力」、「日本語力」、「世界や日本の文化事情に関する知識」、「国際的感覚と人間性を備えている」等が求められていることが窺える。

### 2. 英米言語文化学科の在校生によるアンケート調査

本学の英米言語文化学科に日本語教育副専攻課程が1993年に設置されて以来、社会や学生のニーズに合わせて改編を行ってきたが、現時点での現状と動向を在校生のアンケート調査の回答から見ていく。

## 2.1 調査概要

(1) 目的：英米言語文化学科の日本語教育副専攻課程の現状と動向をとらえるため

(2) 参加者：沖縄国際大学総合文化学部英米言語文化学科の学生

男性3名 女性22名 計25名

表4. 沖縄国際大学総合文化学部英米言語文化学科の学生

	英語教育コース (人)	英語コミュニケーションコース (人)
3年次	1	6
4年次	1	16
科目等履修生	0	1

(3) 実施年月日：2014（平成26）年度

後期 日本語教育実習Ⅰ・Ⅱの授業において

(4) 質問項目：Section1⇒外国語学習について（9項目）

Section2⇒日本語教員について（21項目） \*資料参照

## 2.2 アンケート調査の結果（Section1：外国語学習について）

(1) 語学

語学能力試験についての結果では、25人中16人（64%）が実用英語技能検定試験（以下英検）の2級を取得している。準1級は、1人しかいなかった。英検以外の試験では、12人がTOEICの受験している。英語以外の外国語では、中国語、韓国語、スペイン語、日本語等の検定試験を受けてはいるが、それほど人数は多くない。

英語以外の外国語の勉強の有無では、「ある」と答えた学生（複数回答）は23人（92%）、「ない」と答えた学生は、2人（8%）となっている。1位が韓国語11人（44%）、中国語とスペイン語が2位でそれぞれ10人（40%）、4位は5人（20%）のフランス語、5位はドイツ語4人（20%）、アラビア語1人となっている。

勉強した期間で、一番多いのは、1年間、その次に3年間という結果が出ている。その言語を勉強したいと思った理由は、「旅行したい」、「友達になりたい」、「文化に興味がある」で、「その他」の理由としては、「友達に誘われたから」、「仕事で必要だったから」、「好きな中国ドラマを字幕なしで見たい」、「留学先の友達の影響」、「高校で教科としてあり、学んだので大学では履修した」、「スペイン語話者は多いから」等となっている。

表5. 勉強したいと思った理由（複数回答）

記号	理由	回答数
A	文化に興味がある	9
B	ファッションに興味がる	2
C	音楽が好き	8

D	映画が好き	8
E	本や雑誌を読むのが好き	0
F	旅行したい	11
G	友達になりたい	10
H	その他	10

## (2) ホームステイ及び留学

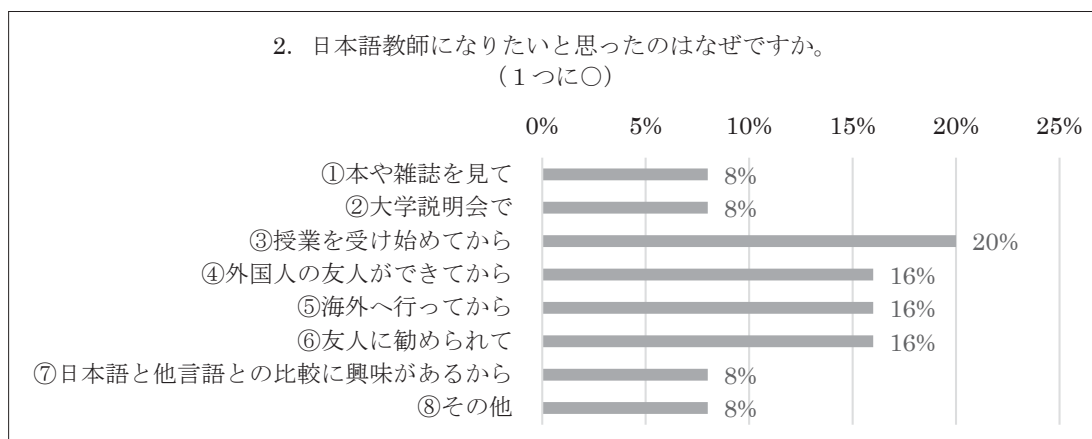
ホームステイの経験が「ある」学生は14人（56%）、「ない」学生は、11人（44%）である。期間としては、2日、2週間、3か月、6か月、10か月等である。場所は、米国（シアトル、ロサンゼルス、マイアミ、ボストン、NY等）が一番多く、その他カナダ、韓国、マレーシア、インドネシア、スペインとなっている。次に半年以上の留学経験者については、「ある」12人（48%）、「ない」13人（52%）でそのうち私費留学が8人（66.7%）、交換留学4人（33.3%）である。私費留学先は、米国、カナダ、となっており、交換留学先としては、本学の協定校である台湾の東海大学、韓国の韓南大学となっている。

## 2.3 アンケート調査の結果(Section2：日本語教員について)

### (1) 日本語教師を目指す理由

「日本語教師になりたいと思ったのはいつか」という質問に対して、大学1年（14人で56%）という答えが最も多く、その理由は、「授業を受け始めてから」（5人で20%）が1位となっている。その他に、「外国人の友人ができてから」や「海外へ行ってから」という理由もあり、留学のきっかけや、学内にいる留学生との出会い等が影響していることも窺える。

図1. 日本語教師になりたいと思った理由



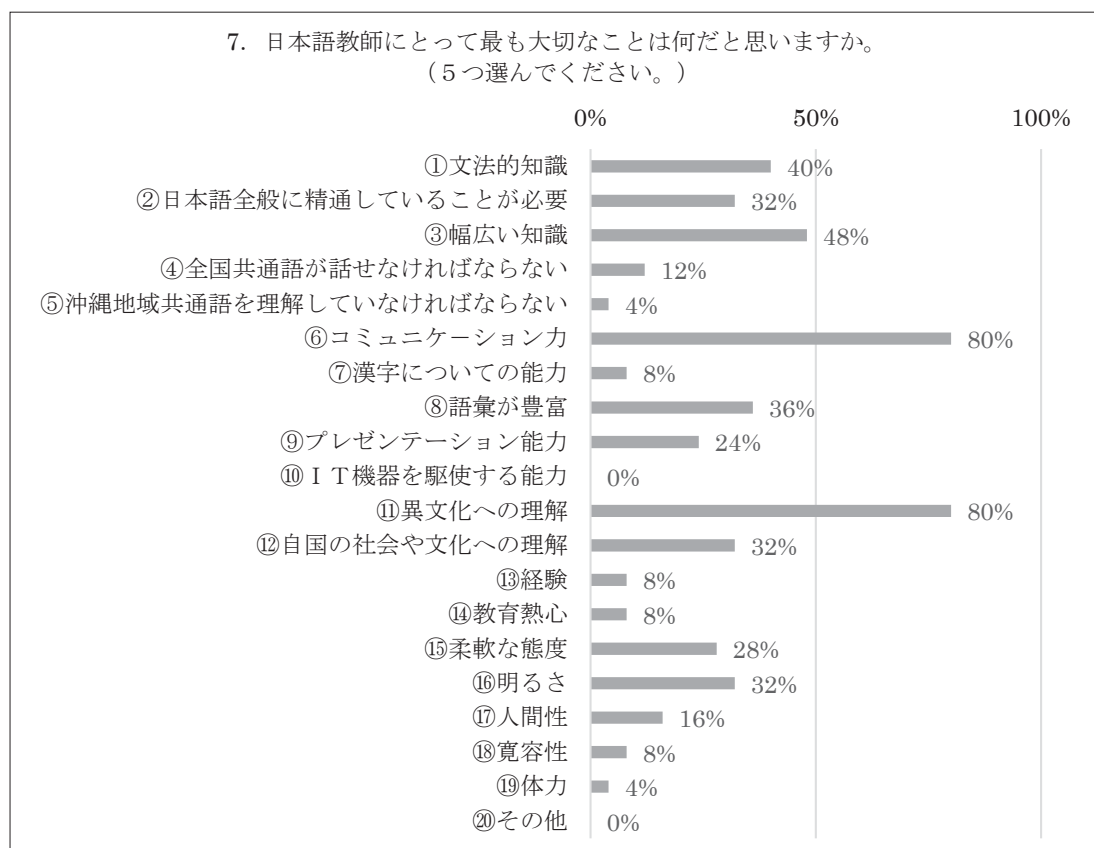
### (2) 日本語教師にとって大切なこと

「日本語教師にとって外国語を学ぶことは必要だと思うか」の質問には、「絶対必要」と「必



要」が同数の36%で、「かなり必要」は28%となっている。つまり必要ではないと回答した学生は、ゼロで全員が外国語学習は、必要だと思っているのである。「日本語教師にとって大切なことは何か」という質問に対しては、「コミュニケーション」、「異文化への理解」が同数で1位となっている。その次に「幅広い知識」、「文法的知識」、「語彙が豊富」となっている。

図2. 日本語教師にとって大切なこと



### (3) 履修科目について

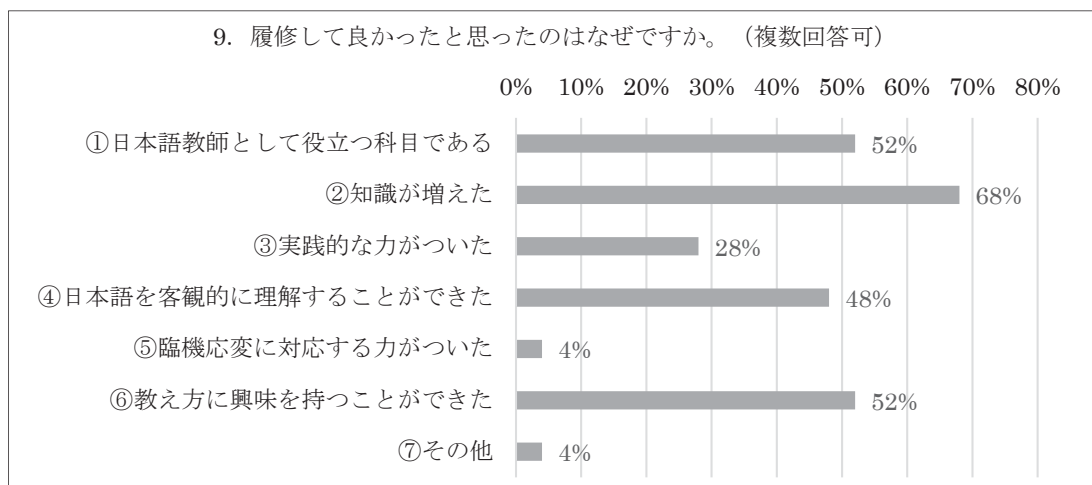
英米言語文化学科の学生は、表2に示した言語に関わる領域から「言語学概論Ⅰ&Ⅱ」(必修4単位)、「日本語表現法演習Ⅰ&Ⅱ」(4単位)と「日本語現代文法Ⅰ&Ⅱ」(4単位)を履修することになっている。そして、日本文化学科提供科目では、「日本語学概論」(2単位)を履修するように指導しているため、その通りに履修していることが窺える。

表2の科目の中で履修してよかったと思う科目での1位は、「日本語教育実習Ⅰ」(64%)、2位は「日本語表現法演習Ⅱ」、そして4つの科目、「日本語現代文法Ⅰ」、「日本語現代文法Ⅱ」、「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習Ⅰ」が52%で同じ割合である。なお、本調査時点では、「日本語教育実習Ⅱ」の授業で教育実習を終えていない学生が多かったため、割合

は低くなっているのではないかとと思われる。

そしてそれら科目を履修して良かったと思った理由の1位は、「知識が増えた」(68%)、2位は、「日本語教師として役立つ科目である」(52%)と「教え方に興味を持つことができた」(52%)が同率となっている。

図3. 履修して良かったと思った理由



あわせて、本学が提供している科目以外に学んでみたいと思う科目を挙げてもらったところ、1位「沖縄事情」、2位「コミュニケーション教育」、3位「日本事情」、4位は「男ことば・女ことば」、5位「若者語」、6位は「全国共通語の話し方」と「心理学」となっている。それらを学びたい理由としては、「出身地である沖縄のことを多く学んで良いところを伝えたい」、「日本・沖縄事情は、自分の国、地元のことだから」、「コミュニケーションはどんな場面でも大切になってくるので」、「地域や性別によってことばの違いがあるのは面白そうだから」、「共通することばだけではなく、若者ことばや沖縄事情を学ぶことにより、日本語の知識がさらに深まるから」等であった。

日本語教育実習Ⅱでは、9月にタイのパンヤーパーピワット経営大学、3月に台湾の東海大学で海外実習が行われているが、「参加したい」と答えた学生は40%で、「迷っている」が36%、「参加したいと思わない」が24%であった。「参加したいと思う」の理由としては、「海外での実習を経験してみたい」、「アジア地域に関心がある」で、それに対して、「思わない」の理由は、「費用がかかる」、「学内でできるから、海外でわざわざ実習する必要はない」、「実習の期間(9月・3月)が不都合である」、「治安が心配」となっている。現在行われている実習場所は、タイと台湾であるが、それ以外の地域としては、「韓国」を希望する学生が最も多く、その次に「アメリカ」、「オーストラリア」、「カナダ」となっている。

今まで学外で日本語教師の経験がある学生は、3人(12%)で少なく、大体は、留学先での経験となっている。

#### (4) 日本語教育副専攻課程を履修する前と後

日本語教育副専攻課程の科目を履修する前、日本語教師について「外国人と交流できる」、「楽しそう・面白そう」、「日本人だから日本語を教えるのは簡単だ」と思っていたという回答があった。それに対して、履修後には、「日本語について、自分の知識・能力のなさを知った」、「さらに日本語・日本語教育について理解を深めたいと思った」、「日本文化について、自分の知識のなさを知った」となっている。

#### (5) 将来について

大学1年次の時に日本語教師を目指した学生が多かったのだが、3、4年次になると、「現在も日本語教師になりたいと思っているか」の質問に対しては、「少し迷っている」(12人で48%)、「思っている」(11人で44%)、「強く思っている」は、わずか2人で8%であった。「なりたい」と思っている理由としては、1位が「異文化に興味がある」と「海外で働きたい」が同数で、次に「語学が好き」、「やりがいのある仕事である」と続く。それに対して、「迷っている」学生の理由の1位は、「国内で就職するのが難しい」、2位「労働条件が悪い」という結果だった。年次が進むにつれて、迷いが現れ、強く思う気持ちが変化し多少減少しているのは、将来の職業として、具体的に考えるようになるからであろう。それは、日本語教師としての就職先として、「沖縄県内」を志望する学生が最も多く84%に上っている結果からわかる。その次に、「台湾」、「アメリカ合衆国」、「他府県」、「韓国」となっている。

### 3. 考察とまとめ

#### (1) 外国語学習の必要性

英米言語文化学科の日本語教育副専攻課程の学生は、外国語を学ぶことは必要だと思っており、英語はもちろんのこと英語以外の外国語も学んでいるものもいる。外国語への興味は、「旅行したい」、「外国人と友達になりたい」、「その言語を使用する文化に興味がある」、「字幕なしでドラマを見たい」等、身近なところからのスタートである。

日本語教師に外国語能力が必要かは、日本国内で教えるか海外で教えるかによると思われる。日本国内では、母語が様々な学習者がいるため、主に直接法が用いられることが多く英語や英語以外の外国語等の媒介語を使用せず、絵教材をはじめとする視聴覚教材、実物等を用いて教えることが多い。ただし、初級レベルでゼロからスタートする学習者に対しては、キーワードとして単語程度の媒介語を必要に応じて多少使用することもある。また、海外で日本語教師をすとなると、英語やその国の言語で教える間接法を用いることもあるので、英語等の外国語能力が必要となる。語彙や文法等の説明は英語やその国の言語で行い、文型練習(パターンプラクティス)、会話や応用練習は日本語を使用することもある。

工藤(1988)は、「外国語学習には、その国の文学や思想や文化を理解することなど、さまざまな目的なり目標なりがあるわけだが、言語学的な面での目標の一つとしては、外国語の語彙・文法の体系を知り、ものの見方・捉え方を学ぶとともに、外国語を通して母語たる

日本語を見つめ相対化して捉える姿勢を身につけること、つまり《対照》的なものの見方を身につけること (p.36) だと述べている。外国語を学ぶことにより、学習者の思想や文化を理解できる上に、語彙・文法の体系を知ることから学習者の誤用分析も行うこともできる。外国語学習を通し、日本語を客観的に見る能力を身につけることも可能である。国語は内なる言語で日本語は外なる言語として、客観的に見る言語であるため、まず、「なぜ？」の疑問を持つ姿勢が重要となる。さらに、留学生の誤用に気付くためには、様々な外国語に対し身をもって学び、留学生がなぜ間違えるのかを分析する力も養わなければならない。

また、表3に示した文化庁の「日本語教員に求められる資質・能力」にも「日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること。」と掲げられているように、日本語だけでなく外国語学習は、言語感覚を磨くためにも必要だと思われる。英米言語文化学科の日本語教育副専攻課程では、できる限り第2、第3の外国語学習に興味を持ち、学ぶことを勧めたい。

## (2) 日本語教師を目指す理由と職業としての将来性

英米言語文化学科では、海外でホームステイの経験をする、留学をする、ワーキング・ホリデーをするという学生が多い。その中の多くは欧米地域であるが、その際に外国人の友人ができ日本語を教えた経験がきっかけで日本語教員を目指すものもいる。多くは、大学1年生で「異文化に興味がある」、「海外で働きたい」、「語学が好き」という理由から日本語教師になりたいと回答しているが、「国内で就職するのが難しい」、「労働条件が悪い」等の理由から迷っている学生もいる。海外での仕事の選択肢の一つでもあり、また異文化を知る意味では、外国人との交流が多く、外国語を使用するチャンスも多い日本語教師ではあるが、実際には、残業、低賃金、仕事内容等の理由や留学生の人数の変動により、国内での就職先が不安定となることもある。さらに海外の場合は、政治情勢や治安の問題、両親の反対等の理由で、経験として短期間を希望する学生はいても一生の職業として考えている学生は少ない。入口の部分で日本語教師を希望する者が多い反面、出口の就職が希望のないものだと、仕事がないから日本語教師の資格を取るのには、意味がないと思う学生も出てくる可能性もある。

日本語教師という職業の将来性は、国際的な行事や国の政策、その他様々な要因により、非常に左右され不安定に見えるかもしれない。しかし、アジア圏である中国、インド、フィリピン、インドネシア等の現在発展途上にある国にとっては、日本の経済力や技術力はまだまだ必要で、日本語の需要がないとは言えない。また、日本を訪れる外国人観光客、海外に進出する日系企業の増加、日本のアニメやマンガなどのサブカルチャーの人気、「留学生30万人計画」等により、日本語教育の必要性が高まることも考えられる。日本語教師が国内外で活躍できる可能性や将来性が決してないと悲観するものでもないであろう。

### (3) 日本語教師にとって大切なもの

#### ①コミュニケーション能力

細川（2002）は、「言語は人間の思想すなわち人の考えていることを伝え合うためのものであり、それによって、人々は互いの理解を深める。また、このことによって、われわれはそれぞれの共同体における人間相互の社会関係を形成することになる。この行為は一般にコミュニケーションと呼ばれている（p.86）」と述べている。図2で示したように英米言語文化学科の学生は、「日本語教師にとって大切なもの」の中で1番割合の高いものの一つとして、コミュニケーション能力を挙げている。

様々な国から来た留学生と日本語を手段としてコミュニケーションをとるのが最初のステップである。お互いの考えていることを伝え合い、意思の疎通をはかることが重要である。尾崎（2006）は、「言語コミュニケーションは、『聞く』『話す』『読む』『書く』という行為を通して成立するものであるから、コミュニケーション能力があるということは言語の4技能を程度の差はあれ身につけているということである（p.198）」と述べている。日本語教師は学習者にどのように話したら聞いて理解できるか、どのように書きどのような文章なら読みやすく正確に伝えられるのか等を理論的な側面から学ばなければならないであろう。最近の学生は、本を読まないことによる活字離れ、表現力の乏しさ、文章力の弱さが目立ってきている。それを学生自身も自覚している結果が1位ということになったのかもしれない。効果的で円滑なコミュニケーション能力を養うことも必要とされる。

#### ②異文化への理解

日本語教師は、異なった言語や文化を持った学習者に日本語を教える仕事である。まずは、日本の地理・歴史・文化・社会等に関する知識を身につけ理解をしなければならない。自国の文化の意識化をはかり相対化して見なければ、異文化への理解は難しいであろう。その上で、学習者の文化を学び理解することが必要とされる。表3の日本語教員に求められる資質・能力では、「(ウ)その他日本語教育の背景をなす事項についての知識・能力として日本と諸外国の教育制度や歴史・文化事情に関する知識や、学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力を有すること。」が書かれている。諸外国の様々なことに興味をもち理解し受け入れる態度、そして国際的感覚を磨くことが必要とされる。

#### ③幅広い知識

英米言語文化学科の学生は、日本語教師にとって大切なものとして「幅広い知識」、「文法的知識」、「語彙が豊富」等を挙げているが、指導をする際にまず日本語の文法、音声、語彙等日本語全般に精通していたほうが良い。さらに、どのように指導をしたら良いのかを知り教育実践能力をつけるための教授法関係科目（英米言語文化学科では、教材研究、教授法、教育実習等）、言語学や異文化理解に関する知識、日本事情そして地域の事情（沖縄事情）等、日本語教師には幅広い知識とスキルが求められる。

#### ④資質

資質の面では、「明るさ」、「柔軟な態度」、「人間性」が挙げられているが、どのようなクラスにおいても教師の資質が学習者に影響を与え、それが学習者の意欲、成果へつながるであろう。授業のための準備、直接法での授業、そして宿題、課題、試験等のチェックと時間と忍耐のいる仕事である。それだけに明るく、楽しく、臨機応変な態度で臨んでいる教師だと、学習のやる気も向上する可能性がある。学習者の立場になって考え理解し、学習者を受け入れる心が広い人間性のある日本語教師であることが大切である。そして、話題性に富んで創造力があると、活力ある面白い雰囲気での授業になるであろう。

#### (4) 履修科目及び今後学びたい科目

表2の履修科目の中で履修して良かった科目は「日本語現代文法Ⅰ&Ⅱ」、「日本語表現法Ⅰ&Ⅱ」、「異文化理解Ⅰ&Ⅱ」、「日本語教材研究演習」、「日本語教授法Ⅰ&Ⅱ」、「日本語教育実習Ⅰ」となっている。それらの評価が高いのは、日本語教師をするまでは意識していなかった日本語が客観的に理解できるようになった母語への気付き、日本語や日本文化、文法等の幅広い知識が身についたこと、教え方に興味を持ち実践的な力がついたことが考えられる。それらの科目が日本語教師になるために役立つ科目であると学生は自覚していると思われる。

また、英米言語文化学科のカリキュラムになっていない科目で今後学んでみたいと思う科目では、「沖縄事情」が圧倒的に多く、「コミュニケーション教育」、「日本事情」、「男ことば・女ことば」、「若者語」、「全国共通語」と続く。沖縄に住んでいる学生は、日本のことや日本文化について学ぶことはあっても、地元にいるということで逆に沖縄について学ぶ機会のないままであることが多いと思われる。それを学生たちも自覚しているという結果であろう。沖縄で生活する多様な学習者は沖縄のことに興味を持ち、様々な質問をしてくることが想定される。また、沖縄には、方言はもちろん、ウチナーヤマトグチという伝統的な方言ではなく、全国共通語でもなく、沖縄方言的な要素を含む言語がある。学生は、しばしばウチナーヤマトグチを全国共通語として使用することがあり、違いを認識していないことが多い。そのためにも今後、カリキュラムを運営する上で「沖縄事情」や「沖縄のことば」を取り入れた授業を意識していくことが必要とされる。

#### (5) 受講する前と後

日本語教育副専攻課程の科目を履修する前は、「外国人と交流できる」、「楽しそう・面白そう」、「日本人だから日本語を教えるのは簡単だ」と思っている学生が多かったのに対して科目履修後は、「日本人だからそんなに勉強しなくてもできる」と回答した学生は0%で、「日本語についての知識・能力のなさ」、「日本文化についての知識のなさ」を挙げた学生が多かった。日本語教師を始める前は、「日本人だから日本語を知っている＝教えられる」という気持ちで履修するのだが、自然に身についた言語に対してなぜなのか客観的に説明できないこ



とに気付き自分の日本語力のなさ、日本文化への知識のなさを知るのである。日本語教育副専攻課程の科目として受講したのではあるが、それらは外国人に教えるためだけでなく、自らへの学びや気付きになり、将来にも活かされていくのではないかと思われる。

## おわりに

今回の日本語教育副専攻課程を履修している在校生のアンケート調査から見てきたことは、(1) 外国語学習の必要性 (2) 日本語教師を目指す理由と職業としての将来性 (3) 日本語教師にとって大切なもの (4) 今後履修したい科目 (5) 受講する前と後等である。1993年に設置されて以来、時代に応じて改編を経てきたわけだが、そのカリキュラムに対しての現状把握、そして学生の動向が垣間見られたようである。今後は定期的に在校生と卒業生への量的及び質的調査を行い、よりよいカリキュラム運営につながるように努めたい。

## 〈参考文献〉

- 尾崎明人 (2006) 「コミュニケーション能力の育成」、独立行政法人国立国語研究所編『日本語教育の新たな文脈』株式会社アルク
- 工藤浩 (1988) 「特集・これからの日本語教育：外国語学習と日本語教育」『月刊言語』17-9, pp.36-39
- 尚真貴子・松田節子 (2015) 「沖縄国際大学英米言語文化学科の日本語教育－カリキュラム変遷と日本語教育実習を中心に－」『沖縄国際大学外国語研究』第19巻第1号, pp.31-55
- 細川英雄 (2002) 『日本語教育は何をめざすか－言語文化活動の理論と実践－』明石書店

文部科学省「日本語教育のための教員養成について（報告）（抄）」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/t20000330001/t20000330001.html](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20000330001/t20000330001.html)

『日本語教育のための教員養成について』（平成12年3月 文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議報告）

[http://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku\\_suishin/nihongokyoiku\\_yosei/pdf/nihongokyoiku\\_yosei.pdf](http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_suishin/nihongokyoiku_yosei/pdf/nihongokyoiku_yosei.pdf)

資料1. アンケート調査票

資料2. アンケート調査の結果

【資料 1】

日本語教育についてのアンケート（在校生）

※ このアンケートは授業運営の参考にするために行うものです。ご協力をお願いします。

※ 選択肢のあるものは、該当する項目に○をつけてください。

性別：（ 男性 女性 ）

学年：（ 3年次 4年次 科目等履修生 ）

地域：県内（出身地： ） 県外（出身地： ）

所属コース： ① 英語教育コース ② 英語コミュニケーションコース

**Section 1. あなたの外国語学習について教えてください。**

1. 実用英語技能検定試験（英検）の所持級を教えてください。

① 1級 ② 準1級 ③ 2級 ④ 準2級 ⑤ 3級 ⑥ 未受験

2. 英検以外の英語能力試験（TOEIC, TOEFL など）、を受験したことがあれば、試験の種類とスコア（または所持級）を教えてください。

① 試験の種類 ② スコア（または所持級）

3. 英語以外の言語（日本語含む）の能力試験を受験したことがあれば、試験の種類とスコア（あるいは所持級）を教えてください。

① 試験の種類 ② スコア（または所持級）

4. 英語以外の外国語を勉強したことがありますか。

① ある（中国語 韓国語 フランス語 スペイン語 ドイツ語 その他 ）  
② ない

5. 上記4で「ある」と答えた人は下記について教えてください。

複数の外国語を勉強した人は、その中の1つをあげてください。

(1) どの言語ですか： \_\_\_\_\_

(2) どこで勉強しましたか（または、していますか）：

学校（高校・大学） / 塾 / 独学（テレビ講座・ラジオ講座）

(3) どのくらい勉強しましたか（または、していますか）：① \_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_ヶ月

(4) なぜその言語を勉強したいと思ったのですか（下の欄から選んでください）：

（複数回答可） \_\_\_\_\_

A.文化に興味がある B.ファッションに興味がある C.音楽が好き D.映画が好き  
E.本や雑誌を読むのが好き F.旅行したい G.友達になりたい  
H.その他（ \_\_\_\_\_ ）





5. 日本語教師になるかどうか迷っている方（または、なりたいと思わない方）へ  
なぜ迷っていますか。（1つに○） →次は質問6へ

- ① 労力の多い仕事である                      ② あまり知られていない  
③ 労働条件が悪い                              ④ 身分が不安定  
⑤ 語学が苦手                                      ⑥ 性格に合わないかもしれない  
⑦ 国内では就職するのが難しい              ⑧ その他（                                      ）

6. 日本語教師にとって、外国語を学ぶことは必要だと思いますか。

- 絶対必要                      かなり必要                      必要                      あまり必要ではない                      全然必要ではない  
①                                      ②                                      ③                                      ④                                      ⑤

7. 日本語教師にとって最も大切なことは何だと思いますか。（5つ選んでください。）

- ① 文法的知識      ② 日本語全般に精通していることが必要      ③ 幅広い知識  
④ 全国共通語が話せなければならない      ⑤ 沖縄地域共通語を理解していなければならない  
⑥ コミュニケーション力      ⑦ 漢字についての能力      ⑧ 語彙が豊富  
⑨ プレゼンテーション能力      ⑩ IT機器を駆使する能力      ⑪ 異文化への理解  
⑫ 自国の社会や文化への理解      ⑬ 経験      ⑭ 教育熱心      ⑮ 柔軟な態度      ⑯ 明るさ  
⑰ 人間性      ⑱ 寛容性      ⑲ 体力      ⑳ その他（                                      ）

8. 現在、履修している（または履修した）科目について教えてください。

履修してよかったと思う科目を選んでください。（複数回答可）

- ① 日本語現代文法Ⅰ      ② 日本語現代文法Ⅱ      ③ 日本語表現法演習Ⅰ  
④ 日本語表現法演習Ⅱ      ⑤ 日本語学概論Ⅰ      ⑥ 日本語学概論Ⅱ  
⑦ 日本言語史Ⅰ      ⑧ 日本言語史Ⅱ      ⑨ 日本史概論Ⅰ      ⑩ 日本史概論Ⅱ  
⑪ 異文化理解Ⅰ      ⑫ 異文化理解Ⅱ      ⑬ 言語学概論Ⅰ      ⑭ 言語学概論Ⅱ  
⑮ 日本語教材研究演習      ⑯ 日本語教授法演習Ⅰ      ⑰ 日本語教授法演習Ⅱ  
⑱ 日本語教育実習Ⅰ      ⑲ 日本語教育実習Ⅱ（学内）      ⑳ 日本語教育実習Ⅱ（海外）

9. 履修して良かったと思ったのはなぜですか。（複数回答可）

- ① 日本語教師として役立つ科目である      ② 知識が増えた      ③ 実践的な力がついた  
④ 日本語を客観的に理解することができた      ⑤ 臨機応変に対応する力がついた  
⑥ 教え方に興味を持つことができた      ⑦ その他（                                      ）

10. 上に挙げた科目で扱っている内容以外に、学んでみたいと思うもの、関心があるもの等がありますか。（複数回答可）

- ① 音声      ② 全国共通語の話し方      ③ コミュニケーション教育  
④ 社会言語学      ⑤ 教育心理      ⑥ 教育哲学      ⑦ 心理学  
⑧ 日本事情      ⑨ 沖縄事情      ⑩ 沖縄地域共通語      ⑪ 認知言語学  
⑫ 対照言語学      ⑬ データ分析      ⑭ 語用論      ⑮ 待遇表現  
⑯ 談話分析      ⑰ 男ことば・女ことば      ⑱ 地域語      ⑲ 若者語  
⑳ その他（                                      ）



18. 日本語教師養成課程の科目を履修する前、日本語教師についてどう思いましたか

- ① 日本人だから日本語を教えるのは簡単だ。 (複数回答可)
- ② 楽しそう・面白そう。
- ③ 外国人と交流ができる。
- ④ 日本語について、自分の知識・能力はあまり心配ではない。
- ⑤ 日本文化について、自分の知識はあまり心配ではない。
- ⑥ 就職しやすい。
- ⑦ その他 ( )

19. 日本語教師養成課程の科目を履修してどう思いましたか。(履修中の人も)

- ① 日本人だからそんなに勉強しなくてもできる。 (複数回答可)
- ② 日本語について、自分の知識・能力のなさを知った。
- ③ 日本文化について、自分の知識のなさを知った。
- ④ 日本の政治・経済について、自分の知識のなさを知った。
- ⑤ 学習者の言語について、自分の知識・能力のなさを知った。
- ⑥ 学習者の国の文化について、自分の知識のなさを知った。
- ⑦ さらに日本語・日本語教育について理解を深めたいと思った。
- ⑧ さらに学習者の言語について理解を深めたいと思った。
- ⑨ さらに日本語教師としての技能を深めたいと思った。
- ⑩ ますます日本語教師に興味を持った。
- ⑪ 就職するのが難しい。
- ⑫ その他 ( )

20. 将来、日本語教師としてどこで働きたいと思いますか。(複数回答可)

- ① 沖縄県内 ② 他府県 ③ 中国 ④ 台湾 ⑤ 韓国 ⑥ アメリカ合衆国
- ⑦ カナダ ⑧ 南米 ⑨ オーストラリア ⑩ ニュージーランド ⑪ タイ
- ⑫ フィリピン ⑬ インドネシア ⑭ ベトナム ⑮ その他 ( )

21. それはなぜですか。

(例：海外経験をしたい、アジアの国に興味があるなど)

( )

ご協力ありがとうございました！

## 【資料 2】

### 在校生によるアンケート調査の結果について

- (1) 参加者：沖縄国際大学総合文化学部英米言語文化学科の学生
- (2) 性別：男性3名 女性22名 計25名
- (3) 学年及び所属コース

	英語教育コース	英語コミュニケーションコース
3年次	1	6
4年次	1	16
科目等履修生	0	1

- (4) 出身地：那覇市7人、浦添市2人、南城市2人、宜野湾市2人、うるま市2人、  
沖縄市2人、北谷町1人、糸満市1人、北中城1人、西原町1人、  
名護市1人、宮古島1人、  
無記入2人
- (5) 実施年月日：2014（平成26）年度  
後期 日本語教育実習Ⅰ・Ⅱの授業において
- (6) 質問項目：Section1⇒外国語学習について（9項目）  
Section2⇒日本語教員について（21項目）

### アンケート調査の結果（Section1）

#### 語学能力試験

#### 1. 実用英語技能検定試験（英検）の所持級

①1級	②準1級	③2級	④準2級	⑤3級	⑥未受験	未記入
0	1	16	4	0	3	1

2. 英検以外の英語能力試験（TOEIC、TOEFLなど）の種類とスコア（または所持級）  
TOEIC(910)、TOEIC(645)、TOEIC(600)2人、TOEIC(550)、TOEIC(525)、  
TOEIC(460)、他5人はTOEICを受けたが、点数を覚えていないということで未記入

3. 英語以外の言語（日本語含む）の能力試験の種類とスコア（あるいは所持級）

試験の種類	スコア（所持級）	人数
中国語検定試験	2級	1
	3級	1
HSK	4級	1
韓国語能力試験	初級	1
	中級	2
スペイン語検定試験	4級	1
	5級	1
日本語検定試験	3級	1

#### 4. 英語以外の外国語の勉強の有無

①ある 23人 ②ない 2人

#### 5-(1)英語以外に勉強した外国語の種類

中国語	韓国語	フランス語	スペイン語	ドイツ語	その他
10	11	5	10	4	1（アラビア語）

#### 5-(2) 場所

学校（高校・大学）17人、塾1人、学校（高校・大学）と独学3人、  
独学2人

#### 5-(3) 期間

6か月（4人）、1年（9人）、2年（3人）、3年（6人）、3年6か月（1人）

#### 5-(4) なぜその言語を勉強したいと思ったかの理由（複数回答）

記号	理由	回答数
A	文化に興味がある	9
B	ファッションに興味がある	2
C	音楽が好き	8
D	映画が好き	8
E	本や雑誌を読むのが好き	0
F	旅行したい	11
G	友達になりたい	10
H	その他	10

\*H その他の理由（なんとなく、友達に誘われたので、学校の科目で他に取る授業がなかったため、仕事で必要だったから、好きな中国ドラマを字幕なしで見たい、留学先の友達の影響、高校で教科としてあり学んだので大学では履修した、スペイン語話者は多いから）

6. ホームステイの有無

①ある 14 人      ②ない 11 人

7. ホームステイの時期、場所、期間を書く

人数	時期	場所	期間
1	大学 2 年	シアトル（アメリカ）	2012 年 9 月～2014 年 1 月
2	大学 2 年	韓国	2 週間
3	大学 3 年	トロント（カナダ）	2013 年 7 月～2014 年 2 月
4	大学 2 年	テジョン、ソウル（韓国）	2011 年 2 月～2012 年 2 月
5	大学 3 年	ロサンゼルス（アメリカ）	2013 年 7 月～2014 年 1 月
6	高校 2 年	マレーシア	未記入
7	高校 1 年	ラングレーB.C.（カナダ）	2006 年 7 月～2007 年 8 月
8	大学 3 年	カリフォルニア、サクラメント（アメリカ）	2012 年 1 月～2013 年 1 月
9	大学 3 年	マイアミ（アメリカ）	2012 年 4 月～2013 年 3 月
10	高校 1 年	NY、オナイダ（アメリカ）	2010 年 3 月～3 週間
11	大学 2 年	ボストン、マイアミ、ミネソタ（アメリカ）	2013 年 3 月～2014 年 1 月
12	大学 2 年	ニューヨーク（アメリカ）	2013 年 3 月～2013 年 6 月
13	中学校	マラガ、マルベリヤ（スペイン）	2005 年 12 月～2006 年 1 月
14	高校 3 年	パンンバング（インドネシア）	2 日間

8. 半年以上の留学経験の有無

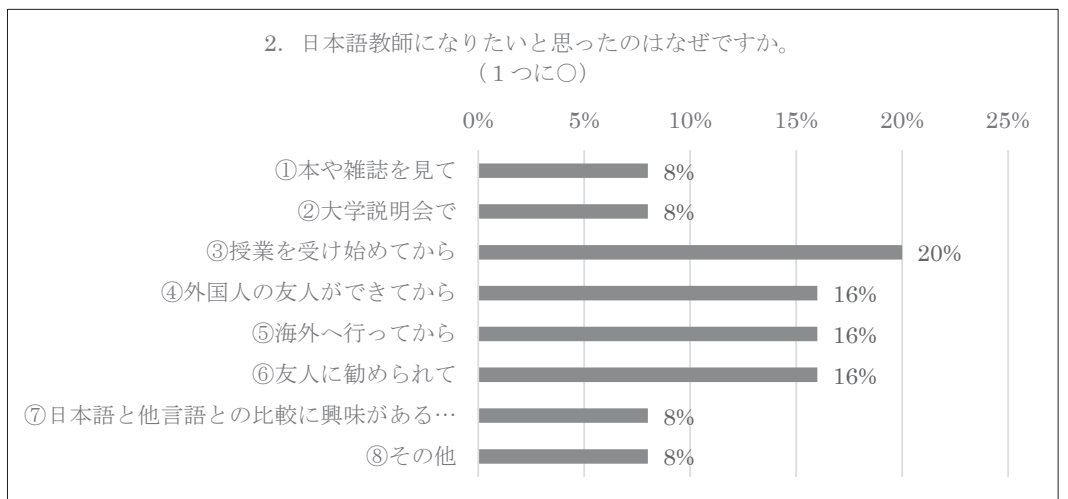
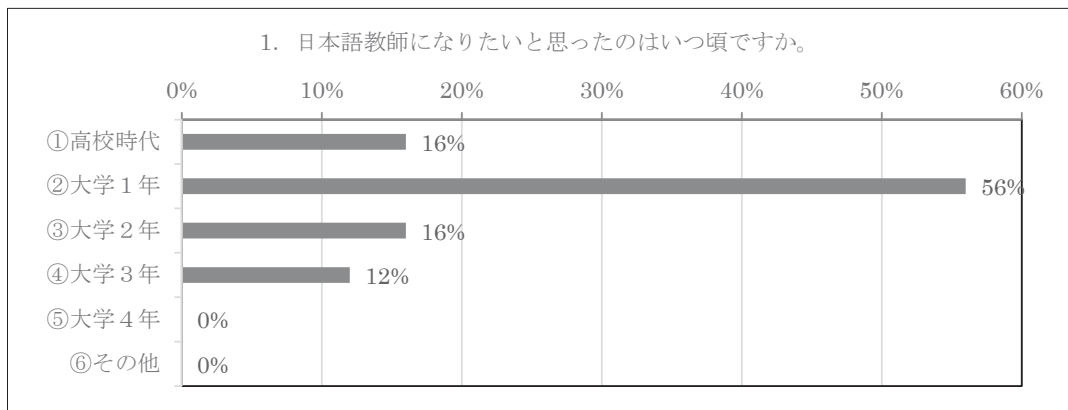
①ある 12 人      ②ない 13 人

9. 留学の時期、場所（国名）、期間

人数	時期	場所	期間	留学制度
1	大学 2 年	シアトル（アメリカ）	2012 年 9 月～2014 年 1 月	私費留学
2	大学 1 年	台中（台湾）	2013 年 2 月～2014 年 1 月	交換留学
3	大学 3 年	カナダ、フィリピン	未記入	私費留学
4	大学 4 年	ソウル（韓国）	2013 年 2 月～2014 年 2 月	私費留学

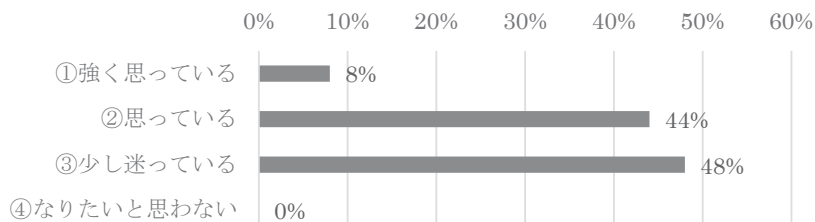
5	大学3年	セブ (フィリピン) ロサンゼルス (アメリカ)	2013年5月～2013年6月 2013年7月～2014年1月	私費留学
6	大学3年	テジョン (韓国)	2013年2月～2014年1月	交換留学
7	高校1年	ラングレーB.C. (カナダ)	2006年7月～2007年8月	交換留学
8	大学3年	カリフォルニア、 サクラメント (アメリカ)	2012年1月～2013年1月	私費留学
9	大学3年	マイアミ (アメリカ)	2012年4月～2013年3月	私費留学
10	大学3年	台中 (台湾)	2013年2月～2014年1月	交換留学
11	大学2年	ボストン、マイアミ、 ミネソタ (アメリカ)	2013年3月～2014年1月	私費留学
12	大学2年	ニューヨーク、マイアミ (アメリカ)	2013年3月～2014年3月	私費留学

## アンケート調査の結果(Section2)

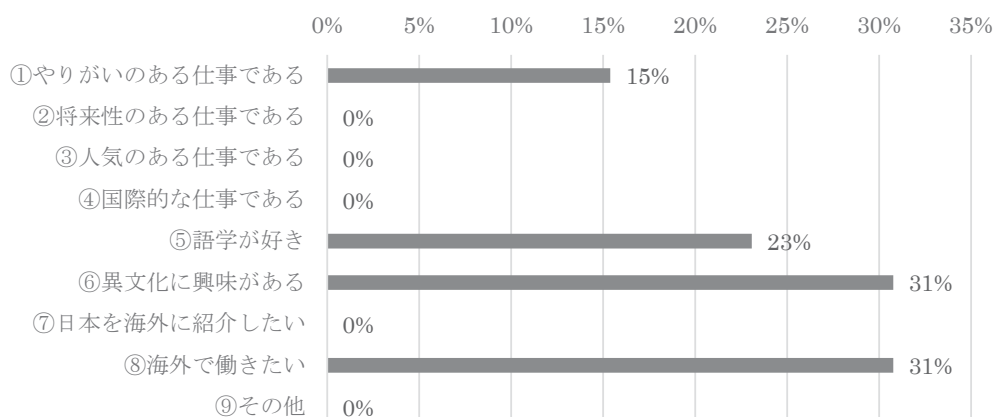




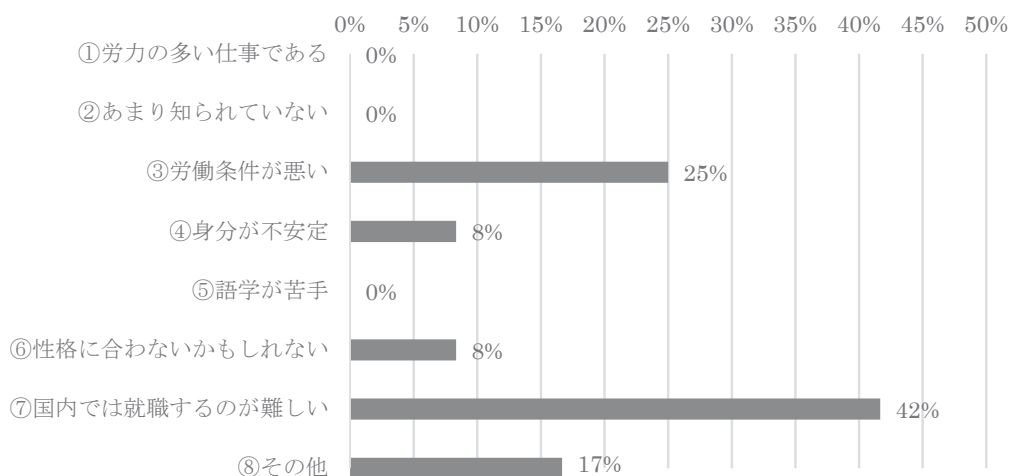
3. 現在も日本語教師になりたいと思っていますか。



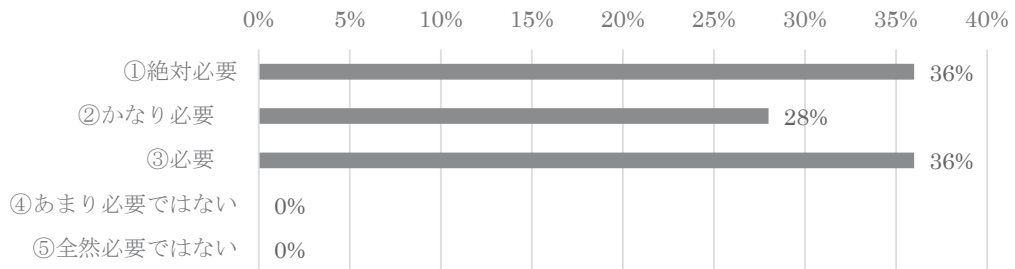
4. 日本語教師になりたいと思う方へ  
なぜなりたいたのですか。(1つに○)



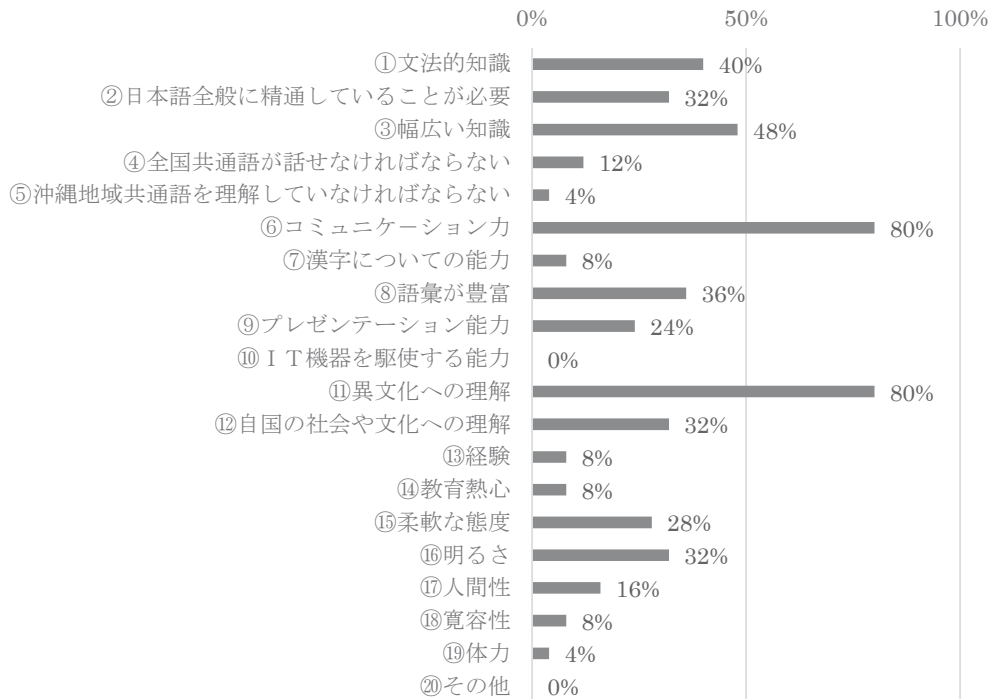
5. 日本語教師になるかどうか迷っている方  
(または、なりたいたと思わない方)へ



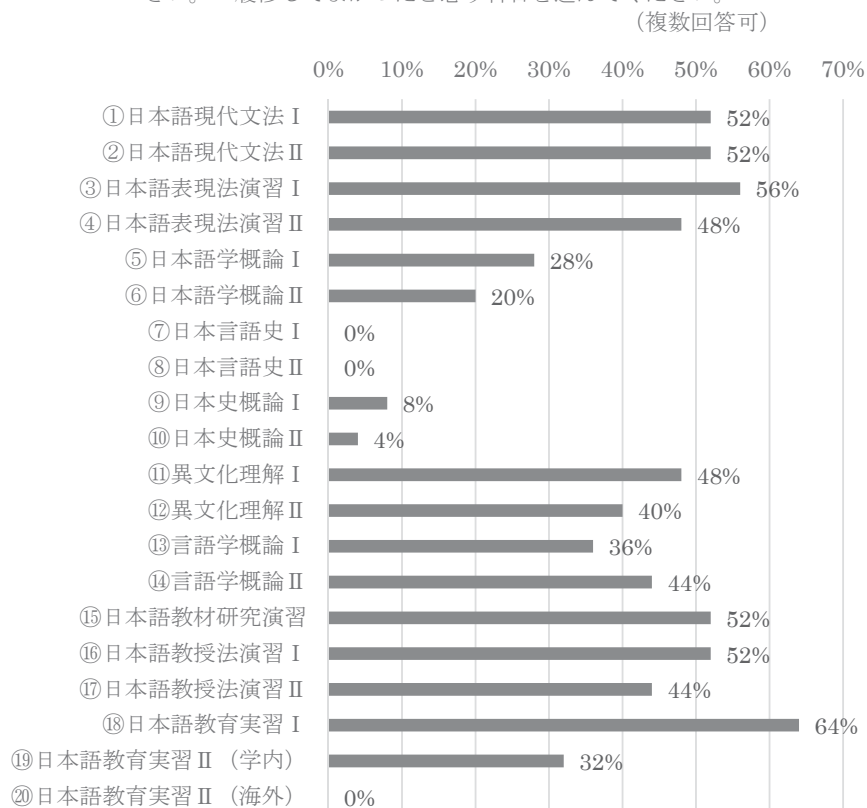
6. 日本語教師にとって、外国語を学ぶことは必要だと思いますか。



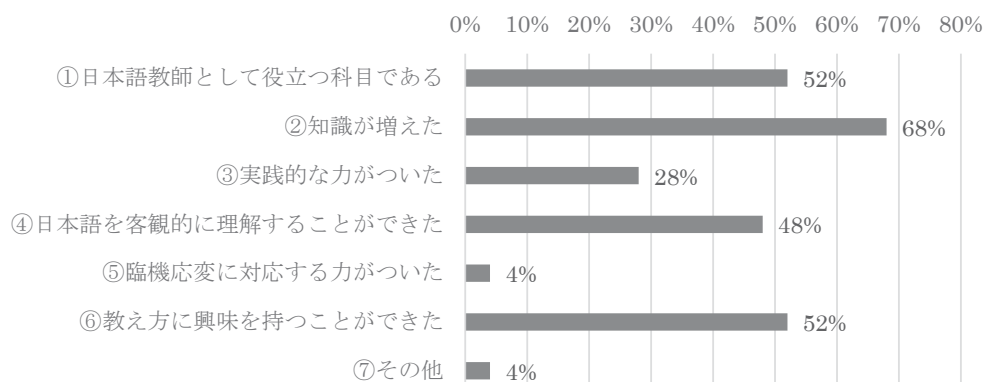
7. 日本語教師にとって最も大切なことは何だと思いますか。  
(5つ選んでください。)



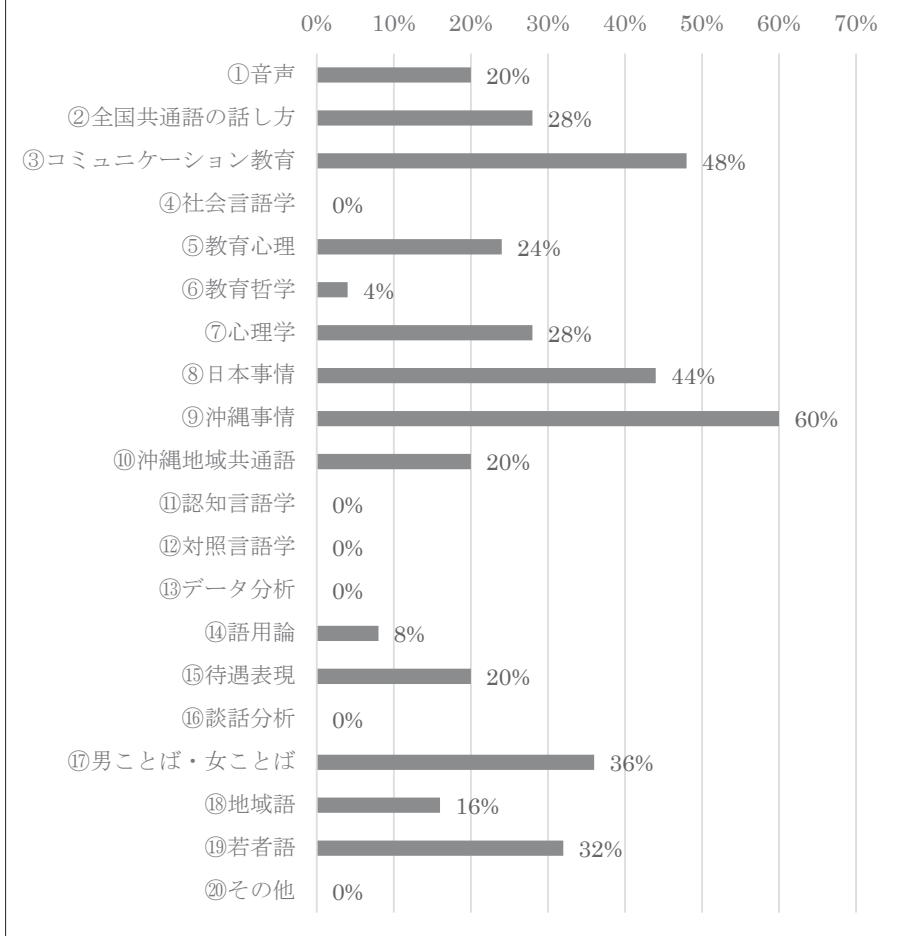
8. 現在、履修している（または履修した）科目について教えてください。履修してよかったと思う科目を選んでください。（複数回答可）



9. 履修して良かったと思ったのはなぜですか。（複数回答可）



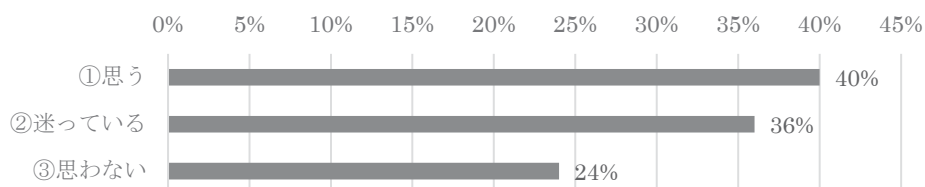
10. 上に挙げた科目で扱っている内容以外に、学んでみたいと思うもの、関心があるもの等がありますか。(複数回答可)



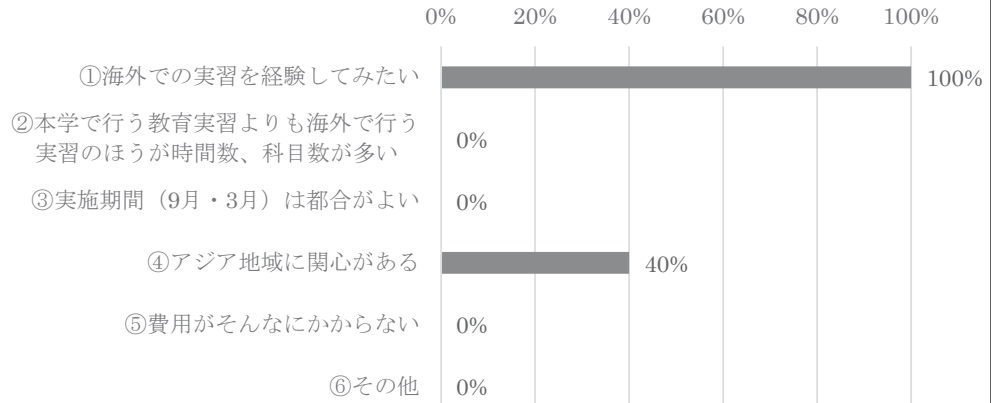
## 11. 質問10に対する理由

- ・⑧⑨⑮⑰⑲などは、ちゃんと理解していないから。
- ・出身地である沖縄のことを多く学んで良いところを伝えたい。
- ・地域や性別によってことばの違いがあるのは面白そうだから。
- ・音声学の授業をとったことがあるから。
- ・コミュニケーションはどんな場面でも大切になってくるので。
- ・日本のことをしっかり知らないと、紹介することができないので。
- ・コミュニケーションは、どんなときにも役立つと思うから。
- ・⑦⑩⑭⑰⑲などは、一度学んでみて面白かったから。
- ・①③⑤⑦⑧⑨に興味があるから。
- ・日本語教師になるときに、コミュニケーション教育や教育心理や沖縄事情を学んでいたら、良い授業ができそうだから。
- ・日本事情と沖縄事情の科目を通して、外国人に日本語のよさを学んでほしい。
- ・言語学習の中で「会話」に最も興味があるため。
- ・音声などについて学習してみたい。
- ・共通することばだけでなく、若者ことばや沖縄事情を、学ぶことにより、日本語の知識がさらに深まるから。
- ・言語に関する知識だけではなく、人と関わることで学べることもある。
- ・全国共通語の話し方や男ことばと女ことばは、なかなか学校の授業で学べないから。
- ・異文化の人と関わるということは、自分の文化も知らないといけなと思うし、音声もちゃんと説明できるようになりたいと思ったからです。
- ・普段使っている日本語が外国人から見た時、どうなのか知りたい。
- ・実際に日本語教師として教える時、②③⑤⑦⑨は役に立ちそうだから。
- ・日本語教師になるにあたって、②③⑧は役に立つと思うから。
- ・自分の国、住んでいるところについては、日本人として知っておきたい。
- ・⑤⑮⑰⑲に興味があるので。
- ・⑨⑰は独特だから。
- ・日本・沖縄事情は、自分の国、地元のことだから。語用論と待遇表現は、日本語を教える上、社会で生活する上で大切だと思うから。

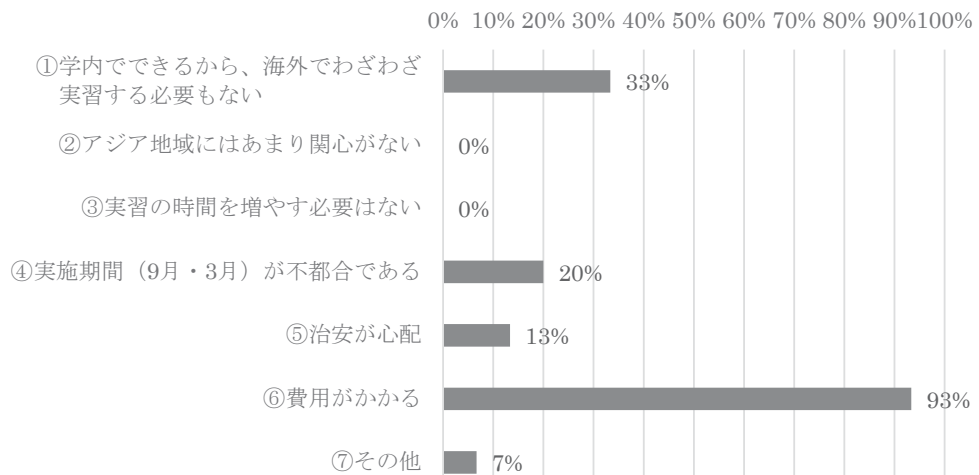
## 12. 日本語教育実習Ⅱでは、海外での実習（9月→中国及びタイ、3月→台湾）も行われています。参加したいと思いませんか。



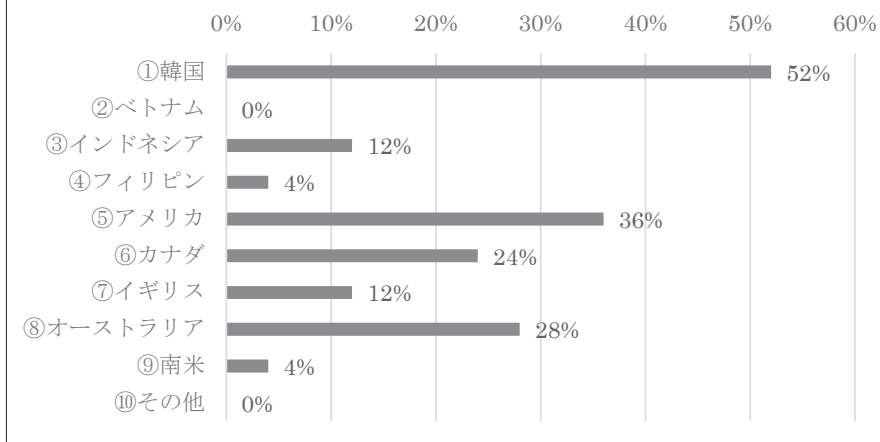
13. ①「思う」の理由は？（複数回答可）



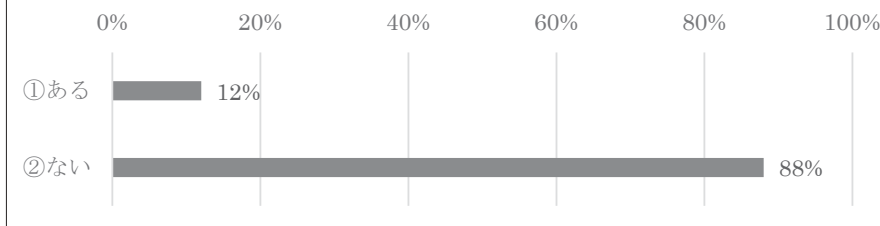
14. ②「迷っている」③「思わない」の理由は？（複数回答可）



15. 現在は、中国の福建省と台湾とタイで教育実習が行われていますが、今後その他の地域で行うとしたら、どこを希望しますか。



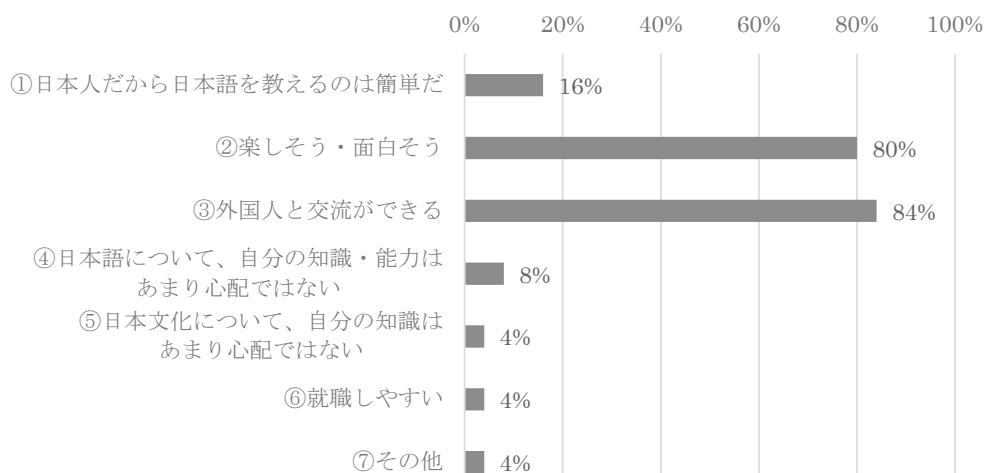
16. 今までに学外で日本語を教えた経験がありますか。



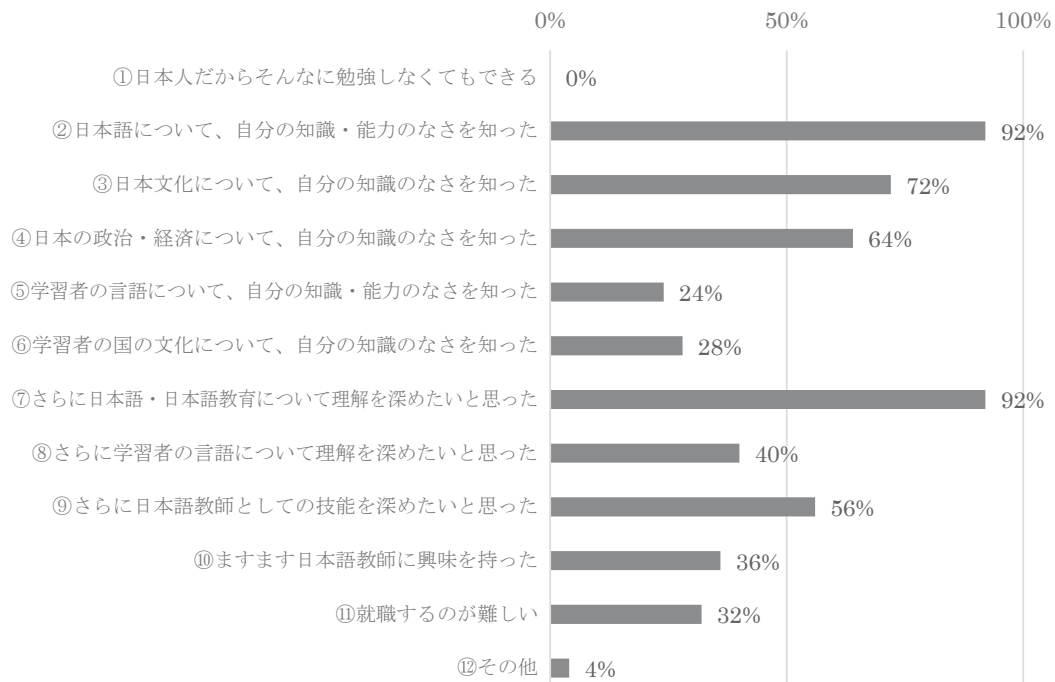
17. 経験がある人の教えた場所、期間、相手、教材等を書く

人数	場所	期間	相手	教材等
1	塾	半年	アメリカ人	『みんなの日本語』、手作りスキット
2	韓国で個人に	2か月	社会人の韓国人女性	韓国で売っていた日本語学習者用テキスト
3	東海大学	半年	日本語学科の学生	東海大学使用のプリント教材

18. 日本語教師養成課程の科目を履修する前、  
日本語教師についてどう思いましたか

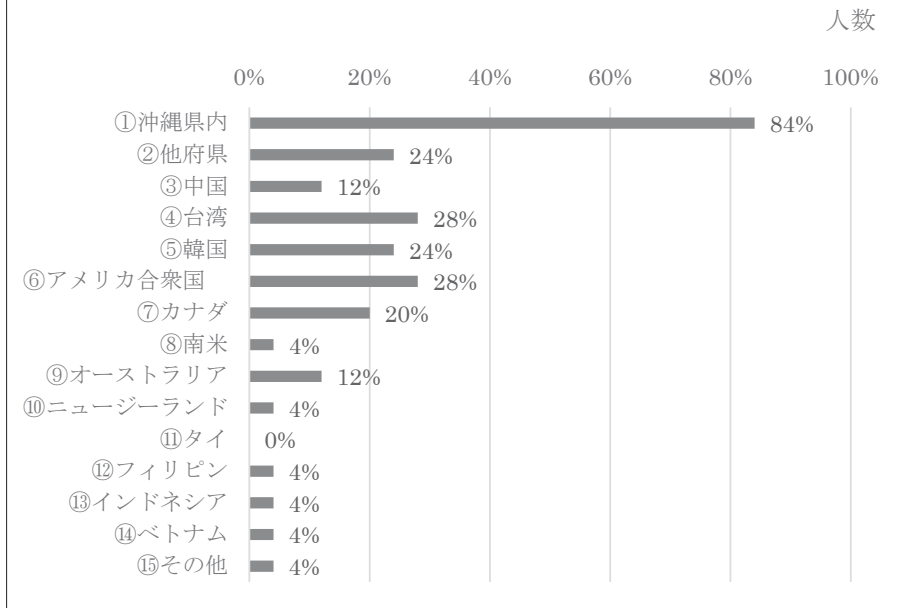


19. 日本語教師養成課程の科目を履修してどう思いましたか。 (複数回答可)





20. 将来、日本語教師としてどこで働きたいと思いますか。  
(複数回答可)



21 の理由

- ・ 沖縄に貢献したいから。
- ・ 中国語も同時に学べる。
- ・ 海外、特にアジアに興味があるから。
- ・ 韓国留学の経験も活かしたいので。
- ・ 沖縄は私の好きな場所だから。
- ・ 国内で日本人として教えたい。
- ・ 県内に残りたい気持ちがある。
- ・ 沖縄から出たくないというのと、アメリカにもし引っ越しすることがあったら、アメリカで働きたい。
- ・ 海外で働いて日本語の楽しさを広めたい。
- ・ アメリカ、カナダ、オーストラリアは、旅行で行ってみたい国だから。
- ・ 生活したことのある場所で働いたほうが良いと思ったから。
- ・ アメリカに留学したので、大学の授業に日本語があり、意外と日本語に興味を持ってきているんだと知って嬉しかったから。
- ・ 海外で日本語を教えて、自分が持っているスキルで挑戦したい。
- ・ 海外経験をしたい。以前から海外で就職することに興味があるから。
- ・ 海外経験をしたいからです。

- できれば、県内ですが、海外に行きたいという気持ちもあって、行くなら台湾やオーストラリアなど興味のある国に行きたい。
- 沖縄が好きだから、沖縄で生活したい。
- いろんな国の人と交流をもちたい。
- 今、韓国語を勉強しているので。
- カナダに住んでみたい。
- ヨーロッパが好きだから。
- アジアの国に興味がある。